

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和6年 3月 22日

事業所名：児童発達支援事業所Ohana

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	収納や遊具の量を調整したり、時間を見ながらスムーズに子どもの入れ替えができるよう職員間で分担している。	面積の基準は満たしているが、人数や活動内容によっては狭さを感じる。今後もよく配慮しながら活動していく。平行での療育を行いたい時もある為、もう一部屋確保することも今後検討したい。
	2 職員の配置数は適切である	6	1		常にギリギリで余裕がないので職員が休みづらい状況を作ってしまった。職員の配置や送迎などの工夫をしながら対応していきたいと考えています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	子どもたちが動きやすいように、常に状況を見ながら構造化の工夫を考えていく心がけている。	居室内になるべく物を置かず、活動中は特にパーテーションで視覚からの刺激を遮断し空間を工夫したりしてより動きやすくわかりやすい空間になるよう配慮する。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1	定期的に遊具や部屋の整理、消毒を行う。季節や子どもたちの様子に合わせて遊びを考え変化を持たせている。	活動するスペースが狭い為、子どもたちが遊びやすいよう定期的に整理、必要なもの以外は置かないなどの工夫をしていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	気になることなどあれば、その時々で意見を出し合って少しでも改善できるような心がけている。	現在が第一土曜日に職員会議でのカンファレンスを実施しているため、今後も引き続き日々の朝礼時等を利用して頻度を上げていきたい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	職員自信に受けたい研修を年度初めに必ず選んで頂く事とその他必要と思う研修を受ける様にしている。	受けたい研修が重なると、職員数の関係で行けなかったり遠慮したりしてしまう。順番に同じ研修を受けられる様に一年の計画を作成する
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0		
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	第一土曜日に職員全員の参加でカンファレンスを実施している。	保育士がしっかりと支援計画を読み込んで支援できているかどうかの不安はある。カンファレンスの際に再度計画書の説明を行う事と現場の職員が積極的に読み込みを行うよう周知する。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	保育士が主体で行う体験活動においては、各セラピストに意見をもらい立案している。	セラピストや現場の保育士がそれぞれ児発管の支援計画に沿って活動のプログラムを立てている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	保育士が主体で行う体験活動においては、各セラピストに意見をもらい立案している。	それぞれのセラピスト(言語、音楽、作業、機能)が利用児の発達状態や成長のレベル等を評価しながら工夫をしながら実施している。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0		
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	十分な時間は取れていないと思うが、分からないことは事前またはその都度しっかり聞くようにしている。	朝礼等でその日の療育の内容や送迎などの分担役割を確認している。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	十分な時間は取れていないと思うが、分からなかったことや疑問に思ったことは聞いたり情報を共有したりするようにしている。	支援終了ごとに気なる事やその利用児の状態や保育園からの伝言や情報などを伝える様にしている。その情報は職員間ではなく必ず児発管にも共有する様にその都度伝えている。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0		
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	2		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	3	対象児がいない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	3	対象児がいない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	各セラピストが情報提供書を作成し、移行先との相互理解を図っている。教育委員会への情報提供も実施。	各セラピストだけではなく総評として児発管の終了モニタリングや利用期間の子供の状況や経過、評価を必ず保護者様へお渡しし就学した際に使って頂く様にしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	3	利用児のほとんどが保育園等に在籍している。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	0		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1	改めての時間がなかなか取れない時はお迎えの時や連絡帳などで現在取り組んでいる課題などを伝えていく。保護者からの連絡帳は必ず職員も見ると共に周知する。	活動の様子や家での様子を伝え合い、保護者の思いに寄り添っていきたいが、保護者によって対応も違ってくるので共通理解とまではいかないところもある。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4	プログラムとしては特別なないが、相談等あればその都度対応している。	個別計画書の中に家族支援を上げている事もあり、送迎時、電話での相談などで対応している。また、療育の見学も希望があれば実施している。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	保護者から直接お話があった場合は、すぐに持ち帰りその旨児発管やセラピスト等に伝え、支援が途切れないよう気を付けている。連絡帳でも対応している。	今後も随時の対応は実施していく。また助言についても保護者様の気持ちに寄り添い、子育てが楽しく前向きになれる適切な助言ができる様心掛けていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	現在、父母会はないのですが、そのような機械を設けていけたらと考えています。	お茶会等の実施を考えている。3年間コロナで実施が難しかった事もあり、来年度は方法を工夫して実施できたらと思います。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	法人の広報誌やOhanaだより、Instagramなどで発信している。	今後も引き続き広報誌や事業所のお便り、SNSなどで発信を続けていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	3	クリスマス会では同じ法人の高齢者を招待して行っている。	行事等は療育の関係で少ないが、高齢者施設や保育園などが併設している利点を利用し法人内ではあるが、異年齢との交流がすこしでもできる様考えていきたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	食事の提供はしていないが、療育で扱う場合はアセスメントを確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	2	現在対象児はいないので実施はしていないが、今後そのような子どもには対応していく。	